

青嶺

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

大切な「感謝」のこころ

元サガン鳥栖主将 高橋義希さんの話☆

一六日の朝、生徒たちが登校して真っ先に目にしたのはサガン鳥栖のマスコットキャラクタのウイントス君と、元選手の高橋さん、サガンドリームスの井上さんでした。

あいさつ運動と講話をしていただくために来校されましたが、大きな声で挨拶を交わし、初めてウイントス君を見たり、生徒たちは興味津々に触ったりハイタッチをしたりして和やかに時間が過ぎていきました。

視聴覚室で行われた講演会では畑山生徒会長の司会で進められ、高橋さんからいろいろな話を伺うことができました。ペナルティーキックを失敗し全国大会へ出場できなかったこと、そこから練習を重ね一年後にペナルティーキックを決めて全国を決めたこと、逃げなかった自分が自信につながったこと等を正直な言葉で語って下さいました。

続いて夢をもつ、夢を叶えるために必要な「感謝」のこころをもつこと。最年少でキャプテンとなり、チームのことを考えることで個人としての成長もあったこと。信頼を得るためにまずは率先して行動することを話されました。

生徒の質問から、人見知りだったにもかかわらず、人前で話す仕事に至るまでには根本的には性格は変わっていないが小学生や中学生に伝えたいという思いが強くなったことを話されました。移籍やポジションの変更については試合に出たい、出続けるといふ思いが強く、練習に励んだが好きな事をやり続けることなので苦労ではないと言われました。

松下副会長からの大変勉強になり今後に生かしたいという感謝の言葉が述べられ、最後に記念写真を撮影して幕を閉じました。

「決まり」について

私が勤めていた会社は世界中に工場があり、東京の本社にも研修で多くの国からたくさんの人たちが訪れていました。研修が長くなる時には彼らは私たち新入社員が生活していた千葉県の市川市にある社員寮に宿泊します。

ある時、インドネシアから研修生がやってきました。一ヶ月の研修です。彼は立派な髭（ヒゲ）を生やしていました。それはイスラム教では大人の証として男性は髭を生やすという習慣からでした。食生活も異なりますし、私たちは生活を共にしながら徐々に仲良くなりました。

しばらくして、彼は突然髭をそり落しました。私はびっくりして理由を尋ねましたが、社則で禁止されているから、と彼は答えました。「勉強にきているのだから、決まりには従わなければならぬ。帰国したらまた生やすよ」と彼はさばさばした表情で答えました。恐らく今はそのような決まりはなく今後はそのような決まりはなくなっていると思います。しかしその時の「何かを得る、学ぶ」ために「決まりは守る」という彼の姿勢は潔いと感じました。謙虚でもありましたし、学んだことを国へ持ち帰るという使命感も大きかったはずで、大事な事の優先順位をつけて彼は自分で決断し、実行したのです。よく決まりについて合理的では

ないものは無くすべきと言われます。「なぜ〇〇したらダメなんですか？」という質問を受けることも多いのです。では反対に「なぜ〇〇したいのですか？」という問いかけに、説得力を伴って答えられるでしょうか。そして「〇〇すること」で「失われるかもしれない何か」について自分で責任をもてるでしょうか？

最初に三年生を担任した時何度言っても違反のズボン往直さない生徒がいました。三者面談でもその恰好でした。私はそれでも良いので受験もそのまま行くと約束してくださいと保護者に伝えました

が、「その時だけはちゃんとさせる」と返事されました。「〇〇したい↓違反ズボン履いて目立ちたい」だけど、自分が「入試で損をする」のは嫌だから、その時だけはみんなと同じにする。そして入試が終ったならまた（眉を剃るし、髪も染めるし）ズボンも違反を履く：決まりを破ることの

最もいけない点は「守っている人間が嫌な気持ちになること」で、先ほどのような考え方や態度は、誰も言葉には出さないものの周りから軽蔑され、仲間としては認めてもらえなくなるのです。それは両方にとつてとても悲しいことです。

私は「決まり」としてある

以上は守るべきだと考えますし、その「決まり」が変わった方が、あるいはなくした方が今より生活が改善されるのなら、そうするべきだと思います。

そのためには、周囲を動かし、みんなが納得できる理由が必要です。正当な権利と単なる個人の趣味嗜好の「わがまま」とは全く異なる次元のものです。

自分の意見や考えの根拠が、周りの人間を納得させる説得力があるのかどうか、しっかりと掘りし、真剣に考えてみてください。そしてその行動の責任を自分が負えるかどうかを自分自身に問いかけて下さい。自分の判断や決断について一切の責任を自分で負う覚悟をもつこと、それが大人として必要な態度だと私は確信しています。

校長室より

中体連を終え、卓球部が県大会に進みます。それぞれの戦いを終えて、スッキリとしているより、不完全燃焼の方が多く感じています。高橋さんにそんな子どもたちに声をかけるとしたら、どのような質問を講演会後にしたところ非常に悩まれて、今すぐどうこうではなく時間がかることもありますね：と言われました。PKの失敗を一年後にはらした経験を語られましたが、その間には気持ちが折れそうになったことも多かったでしょう。そこを乗り越えられたら失敗は成功への過程になります。是非次の機会でもリベンジを！